

1. 教育の責任

成人看護学領域では、成人期にある対象者とその家族に対し、対象者の価値観や背景を理解し一人の生活者として、その人らしい生活が営めるよう支援できる看護師を養成する。そのためには、他者を多角的捉えることができる視野を養うことに努める。

2. 教育の理念

本学の国際看護学部の教育理念の一つである人々の多様な価値観を理解し、多角的視野を広めることにより、ライフサイクルの中でも最も幅広い年代にある成人期の対象とその家族の背景を多角的に捉え理解し、健康問題及び健康レベルに応じた適切な看護提供ができる看護師を育成する。

3. 教育の方法

成人看護学領域では、成人期にある対象およびその家族に対する看護支援を構築する。成人期にある対象は、ライフサイクルの中でも最も幅広い年代にあり社会的役割と責任を持ちながら生活する時期である。そのような時期にある対象やその家族に対して、身体的・心理的・社会的特徴とライフサイクルの視点から理解するとともに、成人期に特有な健康や健康問題および健康レベルに応じた看護を考えることができるよう教育的な指導が必要であると考えている。また、成人看護学領域では、「慢性期看護」と「急性期看護」と二つの異なるフェーズにある対象者への理解および成人期の特徴をふまえた看護の構築ができるよう理解を促す必要がある。

「慢性期看護」

慢性的な経過をたどる疾患を持ちながら生活する対象者をその人らしく生活を送り、その人らしい人生を送ることができるよう看護援助として何ができるかを探求し続ける看護者の役割を伝えていく必要があると考えている。また、人生の最後を迎える対象者や家族への緩和ケアにおける看護者の役割についても理解を深化させる必要があると考えている。

教育的実践としては、対象者の疾患や身体的側面のみならず、対象者が抱える身体的・精神的・社会的・スピリチュアル的な側面を捉え、個々の価値観の多様性を理解するとはどういうことなのかを考えるきっかけを作り出すことを目標としている。課題やグループワークをとおし自己と他者の相違を実感し、看護職者となる学生は自らの価値観をどのように認識しているのか、また、今後どのように変化していくのかという気づきにつなげられるような授業展開になるよう工夫している。

「急性期看護」

急性期および周手術期における対象の生体反応や生命維持の過程における看護の方法や知識、また、術前教育から社会復帰のための患者教育まで対象者の個別の背景を踏まえた看護援助について、教育的な指導が重要であると考えている。慢性看護と同様に対象者を生活者としてとらえ、その人らしい生活を取り戻すために急性期のフェーズにある患者を安全かつ安楽な状態を確保し、元の生活により近い状態の回復を目指し、急性期のフェーズにある患者の身体的変化を具体的にイメージする必要があると考えている。

教育的実践としては、急性期にある対象者の著しい身体的変化や身体的な苦痛をより具体的にイメージできるよう、ロールプレイやグループディスカッションをとおして、理解を深化させることを目標としている。課題やグループワークをとおして自己の知識や技術の到達度を理解できるような授業展開になるよう工夫している。

4. 教育の成果

教育的実践をとおして、学生からは授業の目標達成に繋がる一定の評価や意見がフィードバックされている。今後もフィードバックや学生の反応、理解度を捉えながら教育成果を向上させたいと考えている。

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：国際看護学部 名前：和田 由里 作成日：2023年12月22日

5. 改善への努力と今後の目標

学生はこれまでの自らの体験と照らし合わせながら、対象者の価値観や背景をイメージしており、慢性疾患を持ちながら生活を営む対象者の苦悩や急性期の状態にある対象者の苦痛を具体的にイメージできる工夫を探究し続けることが重要であると考えている。
また、多角的な視野をひろげ対象者の多様な価値観や背景を捉えることができるよう探究し続ける。

【添付資料】